

コロナウィルスと共に生きる

令和2年7月
立川女子高等学校
カウンセラーだより裏面

学校が再開してから約1ヶ月ほどが経ちました。

みなさん、まだ慣れない状況だとは思いますが、三密を避け、また、心も無理をしないようにしてくださいね。

世間では、「ビフォアコロナ」「ウィズコロナ」という言葉が出るほど、今回の感染爆発は歴史に残るものであると思います。

この先もコロナウィルスが完全に無くなるということよりも、コロナウィルスと共に生きていくという方向になっていくのでしょうか。

コロナウィルスによって、世界では36万人以上の方々が亡くなりました。このことはとても悲しいことです。生きているわたしたちは、このことを忘れてはいけません。

しかし、コロナウィルスを敵と見なすだけではなく、コロナウィルスによって学んだこと・良いきっかけとなったことなどもあると思います。一度、それらを振り返ってみるのも良いかもしれません。

コロナウィルスと共に生きていくとは、コロナウィルスを知っていくこと、一方的に敵と見なさず、共生するための方法を探していくことです。



これは、コロナウィルスだけではなく、人と人のつながりでも同じかもしれません。

初対面もの時に、すでに「気が合いそう」と感じる人もいれば、「この人は気が合わないと思う」と感じてしまう人もいるかもしれません。

でも、気が合わなそうな人を、最初から嫌ってしまうのは知り合っただけで一方的に敵だと思われたら、誰でも悲しい気持ちになりますよね。まずは、心をオープンにして、相手を知ろうとすること、そして、自分のことも知ってもらおうとすることが大事なのではないかと思います。

まだまだ特例的な登校が続くかもしれませんが、みなさんも新しいクラスの友達などに、まず自分の心を開いて相手をしようとする事、共に生きていきたいという姿勢を見せていくことを心に留めてみてください。

最後になりましたが、学校でも手洗い・うがいなどの徹底、三密を避けるための工夫を引き続き行っていきましょう！

